



# 令和4年度 施策評価シート

施策の大綱	3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上	評価担当者
基本施策	(5) 広域的な交通拠点性の強化	政策部長 笠井 武洋
目指す姿	市内外の人が、高速交通ネットワークを活用し、広域的な交流・連携を行っています。	
関連する分野別計画		

## ■ SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	 
SDGs推進の考察	人々にアクセスを提供し住み続けられるまちづくりに資するため、リニア中央新幹線の早期全線開業と市内停車駅誘致、更には、鈴鹿亀山道路の早期整備と関連する国道306号川崎庄内バイパスの事業推進、一般国道1号関バイパスの事業決定による広域道路網の整備を促進する取組を進めることができた。また、その実現に向けては、官民一体となった期成同盟会組織を通じた取組により、パートナーシップ関係の強化を図った。

## ■ 関連する主な事業

(単位:千円)

施策の方向	事業名	実績・成果等	
		上段: 予算額	下段: 決算額
①	リニア中央新幹線整備促進事業	10,730	10,649
①	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立事業	52,704	52,704

太字: 主要事業

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値	
				R4	R5	R6	R7		
1	リニア中央新幹線・JR複線電化推進亀山市民会議の会員数	会員	72	R2	72				80
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									

■ 市民アンケート調査

項目	重要度	満足度	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	重要度	満足度	1.05			— 令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、次年度に考察します。
			0.75			
2	重要度	満足度				
3	重要度	満足度				
4	重要度	満足度				

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進	県等関係団体と連携を強めた取組を展開するとともに、リニア基金の積立てにより駅周辺整備のための財源確保が図れた。また、リニア駅を生かしたまちづくりに関する可能性調査の取り纏めを行った。
② 広域道路網の強化	建設促進期成同盟会を通じた熱心な要望活動により、鈴鹿亀山道路整備が事業採択され、事業着手の運びとなった。今後は更なる連携強化を図っていく必要がある。
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

リニア中央新幹線市内停車駅誘致の推進については、リニア期成同盟会において、本市が提案した県内駅候補地案の調査検討がなされ、駅候補地が決議されるとともに、建設主体であるJR東海に対し要望が行われた。加えて、国の骨太方針2022に名古屋・大阪間の環境影響評価に関する明記がされるなど、四半世紀以上にわたる官民一体の継続的な取組が着実に実を結び、新たな局面を迎えることとなった。こうした中、リニア亀山市民会議への活動支援を通じて、コロナ禍ではあったが、3年ぶりの対面での総会開催をはじめ、PRグッズの作成や会報の全戸配布、夏休みリニア親子学習会の開催等により、機運醸成に資する取組が展開できたほか、国・県のリニア期成同盟会等との連携を強め、全線開業や駅誘致に向けた活動を展開するとともに、県期成同盟会への駅候補地案の提案を契機として令和3年度から2箇年をかけて実施した「リニア駅を生かしたまちづくりに関する可能性調査」を取り纏めた。更には、リニア中央新幹線亀山駅整備基金の令和4年度末積立残高が約19億円となり、計画的な積立てにより、市内停車駅周辺整備に向けた財源確保を図ることができた。一方、広域交通網の強化については、これまでの建設促進期成同盟会を通じた要望活動等により、鈴鹿亀山道路が令和4年4月1日に新規事業化され、引き続き、当該路線の早期整備と関連する国道306号川崎庄内バイパスの事業推進について国等に要望を行った。また、国道1号関バイパス及び周辺道路ネットワーク整備については、隣接する産業集積地域の企業操業状況や渋滞予測等の情報共有を国・県・JHと行い、当該路線の必要性等を確認するなど、広域道路網形成に資する取組を進めた。

A

順調に進んだ

今後の展開方針

リニア中央新幹線市内停車駅誘致の推進については、更なる機運醸成を図るため、リニア亀山市民会議の積極的な会員拡大や新たな取組を展開するとともに、先行開業区間の整備状況等も見据えつつ、県等との連携を強めながら、リニア駅を生かしたまちづくりの可能性についてその検討を更に深めていく。また、リニア基金の積立て目標額(20億円)の達成に向け、引き続き着実に積立てを行いつつ、先行開業区間の関係自治体の事例や駅候補地の検討を進める中で、基金積立て目標額の見直しについても検討を図っていく。一方、広域交通網の強化については、引き続き、新名神高速道路の三重県内区間の6車線化や国道1号バイパスの4車線化をはじめ、鈴鹿亀山道路の早期整備とインターチェンジの設置、関連する国道306号川崎庄内バイパスの事業推進、更には、一般国道1号関バイパスの事業化区間の早期整備と全線にわたる事業決定について、国・県に要望活動を行い、その実現を目指していく。